（別紙３）

公表　事業所における自己評価総括表

○事業所名	木の香園生活支援センター			
○保護者評価実施期間	令和8年3月1日	～	令和8年3月31日	
○保護者評価有効回答数	（対象者数）	2	（回答者数）	2
○従業者評価実施期間	令和8年3月1日	～	令和8年3月31日	
○従業者評価有効回答数	（対象者数）	5	（回答者数）	5
○事業者向け自己評価表作成日	令和8年4月24日			

○ 分析結果

	事業所の強み（※）だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的に行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	チーム支援と情報共有の徹底	毎日欠かさず支援終了後のミーティングを実施し、職員間でその日の振り返りや気づきを即座に共有している。これにより、支援の質の平準化と迅速な対応が可能になっている。	
2	環境への配慮と衛生管理の徹底	写真やイラストを用いた視覚支援により、子どもが活動の見通しを立てやすい構造化を行っている。また、ルミテスターを用いた数値による衛生管理を実施し、清潔で心地よい環境維持に努めている。	
3	丁寧な保護者コミュニケーション	連絡帳や送迎時の口頭伝達を通じ、日々の活動内容や子どもの変化を細やかに伝えている。アンケートの結果からも、事業所の支援に対する保護者の高い信頼と満足度が得られている。	

	事業所の弱み（※）だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	地域交流・外部機関との連携不足	保護者アンケートにおいて「地域交流（児童館等）の機会」への評価が相対的に低くなっている。現状、事業所内での支援が中心となっており、社会性を広げるための外部活動が十分ではない。	近隣の児童館や公園、地域のイベントへの参加を活動プログラムに組み込み、地域住民や他校の子どもたちと触れ合う機会を計画的に創出する。
2	プライバシーに配慮した設備環境の整備	職員からの意見として、個室の不足やポータブルトイレの共有といった課題が挙げられている。特に入浴や排泄に関するプライバシー確保のための環境整備が急務である。	現状のスペースの中で、パーテーションの活用や動線の工夫により、可能な限り個別のプライバシーを確保する。また、将来的なトイレ設備の独立化（ドア設置等）に向けて検討を進める。
3	外部評価の未実施	自己評価は実施しているが、第三者による外部評価を受ける機会をまだ持てていない。客観的な視点での事業運営の検証が今後の課題である。	次年度以降、第三者機関による評価を導入し、運営の透明性を高めるとともに、指摘事項をPDCAサイクルに組み込んでさらなる質の向上を図る。